熊本都市圏の新たな高規格道路について

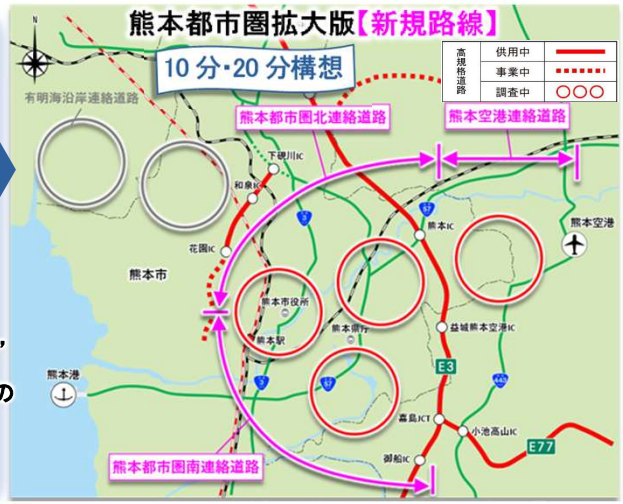
資料B-5

熊本県新広域道路交通計画【概要】（令和3年6月策定）

熊本県新広域道路交通計画のコンセプト

“すべての道は、くまもとに通じる”

「九州の中心に位置する地理的優位性を最大限に発揮し、“すべての道は、くまもとに通じる”という考えのもと、広域道路ネットワークの整備を進めていきます」



国土交通省　道路局長への要望活動（令和４年1月13日）

■ 熊本都市圏の高規格道路ネットワークの早期整備の要望及び県市調整会議の合意事項の報告のため、県・市で国土交通省へ要望活動を実施。

［要望内容］

○九州の発展をけん引する熊本都市圏における新たな高規格道路３路線の計画実現に向けた最大限の支援
- ・熊本都市圏北・南・空港連絡道路の早期実現

○熊本が日本経済の安全保障の一翼を担い、ＴＳＭＣ社の進出効果を最大限発揮するための熊本都市圏高規格道路の着実かつ迅速な整備
- ・中九州横断道路（合志～熊本間）の整備促進
- ・熊本西環状道路（砂原工区）の新規事業化

▲手交状況

▲要望状況

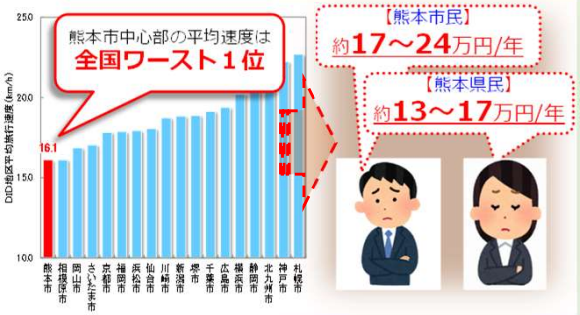
熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会の開催

■ 10分・20分構想の実現がもたらす経済効果等を検討し、広く市民・県民に発信することで地域の機運醸成を図る。

第１回（令和３年11月5日）

■ 熊本都市圏の現状や交通課題に伴う経済損失について議論

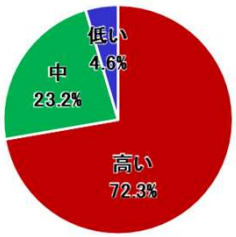
1人当たりの経済損失試算



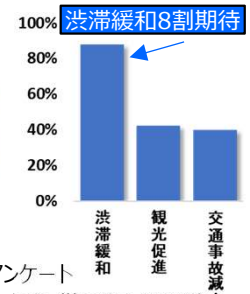
第２回（令和4年1月20日）

■ ｱﾝｹｰﾄ・ﾋｱﾘﾝｸﾞ調査結果および効果算出方法について議論

構想への期待度



渋滞緩和への期待



▲住民アンケート

アンケート総数:約15,000票（うち、学生約4,200票）

第3回（令和4年3月4日）

■「10分・20分構想」実現による効果、報告書について議論
■ 熊本県下における経済波及効果は年間約1,500億円と算出
■ 加えて、くらし、まちづくり、医療、災害等様々な面においても効果が期待される

検討会構成員

所属・役職	氏名
熊本商工会議所副会頭	古庄　忠信
熊本経済同友会副代表幹事	野々口　弘基
熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター准教授	円山　琢也 （座長）
東海大学経営学部観光ビジネス学科教授	小林　寛子
熊本日日新聞社　編集局次長	清田　幸子